

Requested Patent: JP53080590A

Title: FLEXIBILITY COUPLING TERMINAL ;

Abstracted Patent: JP53080590 ;

Publication Date: 1978-07-17 ;

Inventor(s): OOTA YOZO; others: 01 ;

Applicant(s): SUMITOMO ELECTRIC IND LTD ;

Application Number: JP19760156058 19761224 ;

Priority Number(s): ;

IPC Classification: H01R3/00 ;

Equivalents: ;

ABSTRACT:

PURPOSE: To hold the safety of instruments by absorbing a horizontal rotation and kinds of loads in a vertical direction in such a manner that a pin fixed at a tongue-shaped part is inserted in a long hole of clevis and is attached to the axis so as to move rotatedly vertically the clevis and the tongue-shaped part, centering around the base part.

⑨日本国特許庁

⑩特許出願公開

公開特許公報

昭53—80590

⑤Int. Cl.²
H 01 R 3/00

識別記号

⑥日本分類
60 D 0

庁内整理番号
6326—52

④公開 昭和53年(1978)7月17日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭可撓性接続端子

⑫発明者 岡野幹彦

⑪特 願 昭51—156058

大阪市此花区島屋1丁目1番3
号 住友電気工業株式会社大阪
製作所内

⑬出 願 昭51(1976)12月24日

⑯発明者 太田洋三

⑪出 願 人 住友電気工業株式会社

大阪市此花区島屋1丁目1番3
号 住友電気工業株式会社大阪
製作所内

大阪市東区北浜5丁目15番地

⑮代理人 弁理士 滝本浩

明 願 書

発明の名称 可撓性接続端子

特許請求の範囲

接続端子の対向銅板間を可撓性電線にて接続し前配銅板同士をクレビスと舌部とにより嵌着し、前配クレビスに設けた長孔内に前配舌部に固定せるピンを挿通し、さらに前配クレビス又は舌部をその基部に於いて上下方向に回転する如く軸着せることを特徴とする可撓性接続端子。

発明の詳細な説明

本発明は可撓性接続端子に関するものである。

従来の可撓性接続端子例えばアルミニウム母線用可撓性接続端子は第1図に示す如く銅板(1)を有する機器取付端子(2)とアルミニウムパイプ母線(3)を嵌合取付ける嵌合部(4)の銅板(5)との間に前配銅板(1)と(5)にそれぞれ両端を悉く接合せる可撓性軟アルミニウム導線又は編組線(6)により電気的に接続し、前配銅板(1)に設けたクレビス(7)と銅板(5)に設けた舌部(8)とを嵌合し、前配クレビス(7)の上下に設けたパイプ軸方向に長い長孔(9)に前配舌部(8)に固定せるピン(10)を挿通してアルミニウムパイプ母

線性電線(6)と共に長孔(9)内を銅板(5)の舌片(8)に固定せるピン(10)が移動することにより吸収し、風圧による水平荷重や短絡電磁力等の外力による機器への水平回転負荷を長孔(9)内に於いてピン(10)を軸として嵌合部(4)が回転することにより吸収する。然るに機器の長年の使用中地盤の不等沈下等により生ずる機器とアルミニウムパイプ母線との間に傾斜又は段差等を生ずる場合に対しては前記の構造の可撓性接続端子では機器への上下方向の負荷を吸収することは出来ない。

本発明は上記の欠点を改良し長さ方向負荷及び水平回転負荷のほか上下方向の負荷をも吸収する目的にて接続端子の対向銅板間を可撓性電線にて接続し前配銅板同士をクレビスと舌部とにより嵌着し、クレビスに設けた長孔内に舌部に固定せるピンを挿通し、さらに前配クレビス又は舌部をその基部に於いて上下方向に回転する如く軸着せる可撓性接続端子である。

これを第2図について説明すると、第1図と同一符号は同一部分を示し、長孔(9)を有するクレビス(7)を基部(11)と軸着部(12)の2部分に分割し、前配軸

可撓性電線、(7)はクレビス、(8)は舌部、(9)は長孔、
 (10)はピン、(11)はクレビスの基部、(12)は軸着ピン。

と長孔(9)及びピン(10)により嵌合されると共に基部
 (11)に対しピン(10)により回転自在に軸着されている。
 なお上記の説明はピン(10)をクレビス(7)の基部に設
 けた場合について述べたが、これと反対に前記ピ
 ン(10)を舌部(8)の基部(11)にて軸着してもよい。

さらに本発明の可撓性接続端子を機器の取付位置
 により第2図に示す状態から機器取付端子(2)の取
 付状態を90°回転した状態で取付けて使用すること
 もできる。

本発明の可撓性接続端子は上記の如く対向銅板間
 を可撓性電線にて接続し、長孔とピンとにより嵌
 合して軸方向への移動と回転を自由にし、その上
 クレビス基部に於ける軸着により上下方向へ回転
 自在とせるものであるから、母線側から機器側へ
 伝達される長さ方向、水平回転及び上下方向の各
 種の荷重をすべて吸収して機器の安全性を保持す
 ることが出来る。

図面の簡単な説明

図面は可撓性接続端子の斜視図であつて第1図は
 従来のもの、第2図は本発明のものである。

(1)、(6)は対向銅板、(2)は機器側端子、(3)はアルミ
 ニウム母線、(4)はアルミニウム母線嵌合部、(5)は

代理人 弁理士 池 本 昭



図1

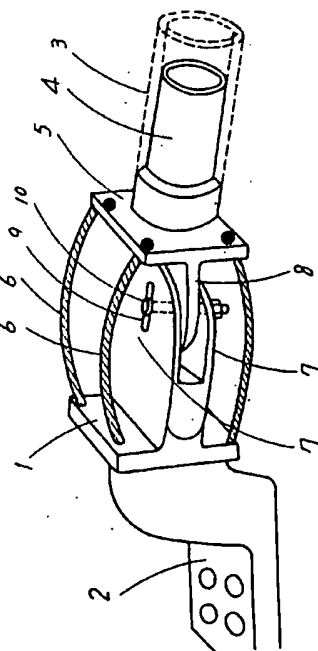


図2

